

資料 No.7

<令和6年度地域包括医療・ケア研修会>

-令和7年1月18日(土)/2日目-12:30~13:40

## 講演 V

# 地域医療を守るための病院DXによる働き方改革

### ■講師

社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 理事長補佐 **神野 正隆** 氏

### ■司会

国診協 地域医療・学術委員会副委員長  
富山県:南砺市民病院長

**清水 幸裕**

## 地域医療を守るための病院 DX による働き方改革

社会医療法人財団董仙会 董仙会 恵寿総合病院理事長補佐  
神野 正隆

2024 年度の診療報酬改定の基本的視点と具体的方向性には重点課題として、「人材確保・働き方改革の推進」が掲げられ、その例として、「各職種がそれぞれの高い専門性を十分に発揮するための勤務環境の改善、タスクシェア/タスクシフト、チーム医療の推進」や「業務の効率化に資する ICT の利活用の推進」が挙げられている。また基本的視点としては、他に「医療 DX を含めた医療機能の分化・強化、連携の推進」も掲げられている。

今後の医療提供体制をめぐる課題は、少子高齢社会・生産年齢人口の減少をはじめとして複数の要因が複雑に絡み合って押し寄せてくる。これらに対応するため、当法人は働き方改革=仕組み改革として、地域医療を守るために最適な仕組みを整え、様々な課題に対応していく戦略をとっており、特に病院 DX に注力している。そして多職種協働で業務効率化を図り、各職種が働きがいをもって本来業務に専念し、人材育成を含め、質の高い医療を提供し続けることを目指している。

当院の推し進める病院 DX 中で、特に多職種に関係している取り組みについて紹介する。①AI の活用。特に「生成 AI」を用い文章要約、音声認識、画像認識に活用することで、多職種の業務効率化・質向上に役立っている。②「RPA」を活用し定型業務のロボット化をすることで、年間 11000 時間以上の削減効果が得られている。③多職種協働の「データ経営分析チーム」がデータに基づいた目線で、部署横断的に分析し、スピーディーに課題のフィードバックを行う。それにより現状を評価し、改善へと繋げる仕組みの構築。④「クリニカルパス」を整備し、入院患者の利用率が 98%以上となり、多職種の業務負担軽減、治療の標準化、生産性・効率性アップに寄与。⑤多職種協働の「入退院管理センター」による入退院業務の一元化、リアルタイムモニターによる PFM の徹底的な強化、医師をはじめとした専門職が本来業務に専念できる仕組み作り、そして病院機能（指標）の質向上に寄与。⑥法人内各施設各部署に点在する膨大なデータを「データセンター」が一元管理し、全部署の可視化、フィードバックをすることで、全職員の自律的な改善活動の推進、多職種連携による業務の効率化。⑦「業務用スマホ（モバイル電子カルテ）」によるチャット機能（1 対多の情報共有）および「恵寿セルケアチーム」による患者の傍で常にケアを行う体制で、各専門職がそれぞれ専門性を発揮し、全ての職種の働き方改革の推進に寄与している。

## 講師略歴

神野 正隆（かみの まさたか）

社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院理事長補佐

### ◆経歴

2006 年 福井大学医学部 卒業

2008 年 金沢大学消化器内科(旧第一内科) 入局

2021 年 金沢大学大学院(先進予防医学研究科) 卒業

2023 年 国際医療福祉大学大学院(h-MBA) 卒業

岡崎市民病院での初期研修、金沢大学病院・福井県済生会病院・国立病院機構金沢医療センター・板橋中央総合病院・市立敦賀病院等の勤務を経て、2020 年より恵寿総合病院消化器内科科長および理事長補佐。内視鏡センター長・薬剤管理センター長・入退院管理センター長・データセンター長兼務。

### ◆役職

理事長補佐・消化器内科科長

内視鏡センター長・薬剤管理センター長・入退院管理センター長・データセンター長

NPO 法人 VHJ 機構 理事

全日本病院協会 若手経営者育成事業委員会 委員

### ◆資格

医学博士

MBA(医療経営学修士)

日本内科学会総合内科専門医・指導医

日本消化器病学会専門医・指導医・評議員

日本消化器内視鏡学会専門医・指導医・評議員

日本消化管学会胃腸科専門医

日本肝臓学会肝臓専門医・指導医

日本胆道学会指導医

日本がん治療認定機構がん治療認定医